

地元の宝『備後絣』知ろう

つなぐ会が戸手小で出前授業

備後絣音頭の継承に取り組む「備後絣音頭をつなぐ会」（会長／

五阿彌寛之）が新市町の戸手小学校（校長／木坂奈保子）で23日、

同町の伝統産業の備後絣と、地域に踊り継がれてきた備後絣音頭について出前授業を開いた。

同校では2年生が生活科で、身近にある施設や企業、まちづくりの活動について調べ、自分たちの生活との関わりを考



える学習に取り組んでいる。

この日の授業では、地元在住の馬屋原美穂子さんから同会メンバー6人が講師を担当。備後絣が江戸時代末期に富田久三郎によって考案さ

れた織物で、日本三大絣の1つに数えられることや、この地域の繊維産業の発展の礎を築いたことなどを児童らに説明した。井桁模様が織り込まれた反物や糸の原料になる綿花も紹介し、実物に触れてもらいながら授業を進めた。

後半は備後絣音頭の踊り方を指導。歌詞に合わせて、備後絣を差し出したり、藍の香りを嗅いだりする動きなどがあり、振り付けに込められた意味を児童らに伝えた。

授業を受けた倉田莉緒さんは「これからも地域の素敵などころを見つけて自分

たちにできることを考えていきたい」と話していた。

備後絣は昭和30年代をピークに衰退の一途をたどり、現在の製造業者は2社の

みという。同会は、

古里の宝である備後絣を後世に伝えたいと平成22年に結成。地域や学校の行事に出向いて備後絣音頭を継承する活動を続

けている。

馬屋原さんは「備後絣音頭がいろんな世代の人をつないでくれる。地域の活性化に役立ちたい」と話した。